

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



南から来た火山の贈り物（伊豆半島）

撮影者：伊豆森林管理署

小笠原諸島返還50周年と国有林野事業

小笠原諸島森林生態系保全センター・2

人工林資源の循環利用促進に伴う苗木の動向について（その1）森林整備課・・・3

「第69回全国植樹祭 開催される」

技術普及課・・・4

森づくり最前線

群馬森林管理署 倉淵森林事務所 森林官 田中 大貴・・・6

小笠原諸島返還50周年と国有林野事業

小笠原諸島森林生態系保全センター

平成30年は小笠原諸島がアメリカから返還されて50周年となる記念の年であり、6月30日には返還50周年式典等が開催されました。林野庁からは国有林野部長（林野庁長官の代理）と関東森林管理局次長（局長の代理）が来賓として出席しました。

第2次世界大戦の最中、小笠原諸島では太平洋戦争が激化するに伴い、昭和19年に軍属等として残された者を除く全島民が本土に強制疎開となりました。終戦後は、アメリカの統治下に置かれ、旧島民全員の帰島は許されませんでした。その後、沖縄返還とともに小笠原返還を求める旧島民やその他日本国民の要求が高



返還50周年パレード



返還50周年式典

まり、その結果、昭和43年4月に日米両国が調印した「南方諸島およびその他の諸島に関する日本国と、アメリカ合衆国との間の協定」の発効により同年6月26日、米国から日本に復帰しました。

ところで、小笠原諸島における国有林野事業は明治32年に国から東京都に管理を委託したのが始まりで、大正10年には小笠原小林区署（後の小笠原営林署）が設置され国直轄の事業として、国土保全、学術研究及び林産物の島内自給自足を目標とし、有用樹種の保護増殖を図りました。初代署長豊島氏の指導の下、オガサワラグワ、テリハハマボウをはじめとし

た小笠原内外の有用樹種を積極的に造林、研究し、小笠原の林業の発展に寄与しました。

アメリカ統治時代には森林経営は放置されてしまいましたが、昭和43年の返還後に設置された小笠原総合事務所国有林課がその業務を引き継ぎました。返還後は小笠原諸島をとりまく自然的、立地的、社会経済的諸条件をふまえ、森林の有する公益的諸機能を総合的に発揮することを本旨とし、地域社会との協調に努めながら、水源かん養、保健休養機能の整備充実及び貴重な植物群落の保護の推移等を図っています。その後、小笠原諸島の殆どを小笠原諸島森林生態系保護地域に設定したほか、それまで実施してきた希少野生動物の保護・増殖、外来種対策などの一層の推進を図るため、平成22年に小笠原諸島森林生態系保全センター



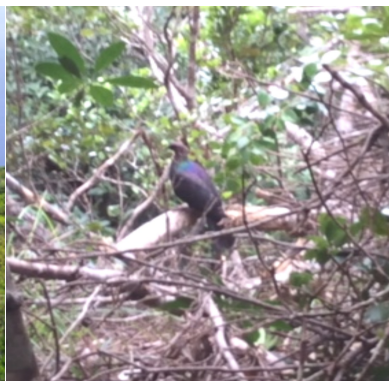
小笠原営林署

（以下「保全センター」という。）を設置しました。

こうした中、平成23年には森林生態系保護地域を含む小笠原諸島の豊かで独特な自然の価値が認められ、世界自然遺産に登録されました。現在、小笠原諸島の国有林は小笠原総合事務所国有林課及び保全センターによって管理されていますが、組織の名前は変わっても国有林を管理する志は変わっておりません。先輩方から託されたこの自然を後世に残していくよう、より一層邁進してまいります。



母島 乳房山から南崎



アカガシラカラスバト

（本郷国有林野部長（当時）撮影）

後世に残したい自然

人工林資源の循環利用促進に伴う苗木の動向について
(その1)
森林整備部 森林整備課

【林業用苗木について】

人工林資源の循環利用を推進するに当たり、苗木の安定供給が大きな課題となっています。このため苗木の需給調整が重要です。林業用の苗木には、野菜の苗木をホームセンターで買うような市場の広さが無いことから、造林者が使用する苗木の数量と、苗木生産者が作れる苗木の数量を事前に調整しておかないと、植えたい時に植えたい苗木が揃わないということが起こってしまいます。

主たる林業用の苗木は、出荷するまでにカラマツで2年、スギ・ヒノキで3年程度を必要とします。例えば「平成34年の春植えにスギ苗木5万本が必要」となれば、平成31年の春、播種(はしゆ)する時期(種を蒔く時期)までに苗木生産者に伝えなければなりません。しかし、予定が変更となり苗木の実際の調達本数が減少すると残苗となってしまう、出荷できなかった苗木は廃棄され、2〜3年育苗にかけた時間と手間が無駄になってしまいます。したがって、主伐の実施に当たっては、毎年度の伐採・搬出の実施量及び時期と、確実に苗木を植えられる時期の確認を行い、苗木の需要計画の精度を上げる必要があります。



スギ人工林



カラマツ採種園 (着花を促し採種しやすい樹形への誘導が必要)

関東局管内の国有林における過去10年間の植栽本数の推移を見ると、平成21年度の200万本から減少傾向にありました。

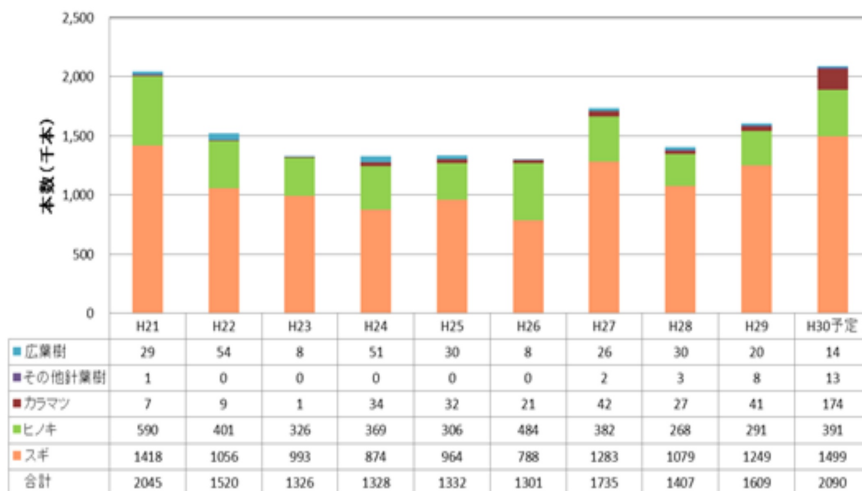
が、平成30年度当初では、再び200万本を超える計画となっています。今後、さらに多くの人工林資源が主伐期を迎えると、主伐と其の後の再造林が進み、苗木の需要についても増加傾向が続く見込みとなっています。

関東局管内の国有林で植栽する苗木の樹種については、7割程度がスギとなっています。では、何故、林業用の苗木の樹種としてスギが選ばれることが多いのでしょうか。スギは温帯性針葉樹で、温暖多雨な日本の気候に適した樹種であり、成長が良く繁殖も容易です。九州の飢肥(おび)地域では、400年も前から挿し木による植林を行ってきました。また、スギはジベレリン(発芽や花芽形成に重要な役割を持つ植物ホルモン)を散布することで雄花が着花しやすくなり、ヒノキやカラマツに比べると種子生産が容易です。さらに、スギは真っ直ぐに成長し、比重が軽い割には強度があること及び加工がしやすいことから、建築用材として優れた樹種と言えます。このため我が国の林業界では、昔からスギが主要な造林樹種として活躍してきたのです。



スギ球果

関東局内の植栽本数(千本)



次回(その2)で、花粉症対策苗・コンテナ苗の動向や取組についてご紹介いたします。



シンボルマークと大会テーマ

6月10日(日)、磐城森林管理署管内の福島県南相馬市(海岸防災林整備地)を主会場として、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、「育てよう 希望の森を いのちの森を」をテーマに第69回全国植樹祭が開催されました。

福島県での全国植樹祭の開催は、昭和45年に猪苗代町で第21回が開催されて以来、48年ぶり2回目となり、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の発生後、東北の被災地では初めての開催となりました。

『第69回全国植樹祭開催される』
 ～育てよう 希望の森を いのちの森を～

森林整備部 技術普及課



代表者記念植樹 (漆原前局長)

当日はあいにくの小雨模様でしたが、式典が始まる直前には雨もあがり、参加した約4,900人により、式典会場隣接地約5haに福島県の方々が育てたクロマツなど18種類の苗木2万本を植樹しました。

プロローグでは、福島県各地域の伝統芸能や震災からの復興を象徴するアトラクションとして、霊山太鼓や山木屋太鼓、会津彼岸獅子、フラダンスが行われ、その他、感謝状の贈呈や、平成28年度より福島県内全市町村を巡った「森林とのきずなづくり植樹リレー」のゴールセレモニーなども行われました。

記念式典では、天皇皇后両陛下によつて、海岸防災林の基本樹種である「クロマツ」や福島県と開催地南相馬市の木である「ケヤキ」のほか、「スダジイ」「アカマツ」「ヤマザクラ」「ヤブツバ

キ」の6種の「お手植え」や、福島県と関わりの深い樹種の「津島マツ」「飯豊スギ」「ベニシダレ」、東日本大震災被災地の復興のシンボルとなった「マルバシヤリンバイ」の4種の「お手播き」が行われました。

メインアトラクションでは、高校生たちが高村光太郎・智恵子をモチーフにした踊りや演劇を発表し、復興へ歩む福島県の姿や様々な支援への感謝の思いを全国からの参加者に伝えられました。

リレーセレモニーでは、福島県知事から来年度の開催県である愛知県知事へ「全国植樹祭のシンボル」である「木製地球儀」が手渡され、次回植樹祭へ開催が引き継がれました。

また、式典会場と大玉村の「ふくしま県民の森」に設けられたサテライト会場



緑の募金を呼びかける 「ミス日本みどりの女神」

が双方方向中継で結ばれ、サテライト会場でのスギの記念植樹の様子が紹介されるなど、参加者の緑豊かなふるさと再生への願いが式典会場へと繋がりました。福島市、郡山市、白河市、会津若松市の4箇所開設されたPR会場にも式典会場の様子が放映され、多くの家族連れなどが訪れていました。

グラントフィナーレでは、大会テーマソング「福ある島」(郡山市ゆかりのGreene作詞作曲)を出演者全員で合唱し、大きな歌声が響き渡り会場が一つになりました。

式典会場に隣接した「おもてなし広場」では、福島県の魅力を象徴する特産品や飲食物の販売、民芸品の張り子の販売、木製品や森林・林業に関する企画展示などの様々なブースが展開され、ステージでは音楽や踊りが行われるなど、福島県内外からの参加者へ福島県の魅力がPRされるとともに、感謝の気持ちを込めた暖かいおもてなしがなされていました。



ブース出展 (草木染めと木炭)



ブース出展
(大賑わいの木製ストラップ)



関東森林管理局では、地元磐城森林管理署がブースを出店し、東日本大震災で甚大な津波被害にあった「松川浦海岸林再生に向けた取組」や「絵で見る日本の森林」のパネル展示、草木染めや木炭の展示を行うとともに、木製ストラップやコースター等の制作体験等をするコーナーを設けたところ、順番待ちが出る程、大人から子供まで多くの人で賑わい、子供達は、自分で作ったドングリや松ぼっくりを使った動物顔のコースターやストラップの完成品を見せ合ったり、記念写真を撮ったりと嬉しそうな顔をしていました。また、ブース入口の「木の名前漢字クイズ」のパネル前では、多くの人たちが真



法被とのぼりで「山の日」PR

剣な顔でクイズにチャレンジしていました。大盛況だった磐城森林管理署のブースには、立ち寄り者延べ千人程と、多くの皆さんに楽しんでいただくことができました。来年の第70回全国植樹祭は、愛知県森林公園（愛知県尾張旭市）で開催されます。

きのこ特集

夏に発生するきのこ
夏に良く発生が確認される「きのこ」を紹介します。

カワリハツ（食用）（ベニタケ科 ベニタケ属）

七月上旬から十月上旬にかけて、里山や森林公園内等の広葉樹林内地上に散生します。

カサは5cmから8cm位で表面は淡赤色や青色又は黄緑色と変化に富んでいる所からカワリハツ

と言う和名が付
けられました。

柄は4cmから
七cm位で白色で
平滑です。

ヒダは白色で柄
に直角に接する
直生から柄に円



ヤコウタケ(夜光茸)

傘直径約2cm。主に八丈島、小笠原諸島に自生。
梅雨~夏に発生。強い光の日没前に目立つ。

を描くように接する上生です。ベニタケ属のきのこには珍しくヒダは柔軟で壊れにくいのが特徴です。ベニタケ属のきのこのほとんどの種は、ヒダを指で触るとすぐに壊れてしまいます。
ツルタケ（毒）（テングタケ科 テングタケ属）
七月上旬から十月下旬にかけて広葉樹林内地上に単生から散生します。
カサは5cmから7cm位で表面は淡灰色から灰色で溝状の線があります。
柄は7cmから10cm位で表面は白色で上部に白色のツバ（内皮膜）はなく、下部に鞘状のツボ（外被膜）があります。ヒダは白色でヒダが柄のつけ根と離れている離生です。



今月の表紙

「南から来た火山の贈り物
(伊豆半島)」

伊豆半島は、約二千万年前に現在の小笠原諸島の硫黄島付近にあった海底火山群が、フィリピン海プレートとともに北へ移動し、本州に衝突して形成されました。

大きな地殻変動や火山活動によって形づくられた豊かな自然や美しい景観、そして特有の文化は国際的にも評価され、今年四月、国内で9地域目の「ユネスコ世界ジオパーク」に認定されました。

伊豆の国有林は、海洋に面する天城連山を中心に分布し、太平洋岸では珍しい広範囲なブナ林をはじめ、ヒメシヤラやカエデの天然林が広がっています。また、水流が磨き上げた美しい溶岩の岩肌が見られる滑沢溪谷などのジオサイトがあり、多くの人々が訪れています。ジオパーク登録以降、観光客も増加傾向にあり、今後は地域と連携しながら適切に国有林を管理していきます。



森づくり最前線

群馬森林管理署 倉淵森林事務所 森林官 田中 大貴

私の勤務する倉淵森林事務所は、群馬県高崎市に所在し、上毛三山の一つである榛名山(はるなさん)を望む約三千六百haの国有林を管理しています。

高崎市の中心街からほど近い観音山(かんのんやま)丘陵内の国有林は、標高百〜二百十mの都市近郊林として「野外スポーツ林」に設定され、地域住民の保健休養の場、散策の場として親しまれています。近くには、昨年、ユネスコの「世界の記憶」に登録された上野三碑(こうづけさんび)もあることから、観音山周辺に訪れる方も増えています。また、都市計画法による風致地区にも指定され、景観の美しさを維持保存していくこととされています。

榛名山の象徴として親しまれている榛名富士(標高1,391m)周辺の国有林は、カラマツ人工林とミズナラを主体とした天然林が一体となった森林景観を構成しています。また、「榛名湖風致探勝林」としてレクリエーションの森に選定され、6月頃には群生しているヤマツツジやレンゲツツジが見頃で多くの人々が訪れます。



観音山(高崎市)



榛名富士

当森林事務所管内の国有林では、公共サービス改革法に基づく民間競争入札(市場化テスト)により、平成28年度から複数年契約による森林環境保全整備事業として、間伐を含む木材生産と地拵や植付等を一体的に行っています。複数年の契約にすることで、より計画的・効率的な路網設計をすることが可能となり、耐久性のある路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な森林整備が見込まれています。今年はその3カ年契約の最終年として、よりよい森林となるように署の担当者と請負業者との打合せを行い、事業実行に努めているところです。



生産現場

平成29年6月には、烏川流域(源流部)森林整備推進協定を磯村産業株式会社、群馬県西部環境森林事務所と当署の三者で締結しました。民有林と国有林が連携して、地域における路網整備や情報交換を行うことで、一層の森林整備の推進が期待されます。同年11月には民有林・国有林双方の関係者による技術交流会を開催し、森林の蓄積の把握方法の実習、スギ大径木の伐倒や高性能林業機械による造材・搬出作業の実演が行われました。

当森林事務所管内では、国民参加の森づくりに関しても多くのフィードバックを提供しており、毎年、協定を

結んだ団体等が行う森林整備活動への技術支援を行っています。また、森林環境教育の一環として、高崎市の倉淵中学校においても森林教室を開催してきており、今年度も教室での座学とあわせて、森林内での枝打ち作業を体験してもらおうことができました。



体験林業を行う倉淵中学校の生徒さん

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL(027) 210-1158
FAX(027) 230-1393